

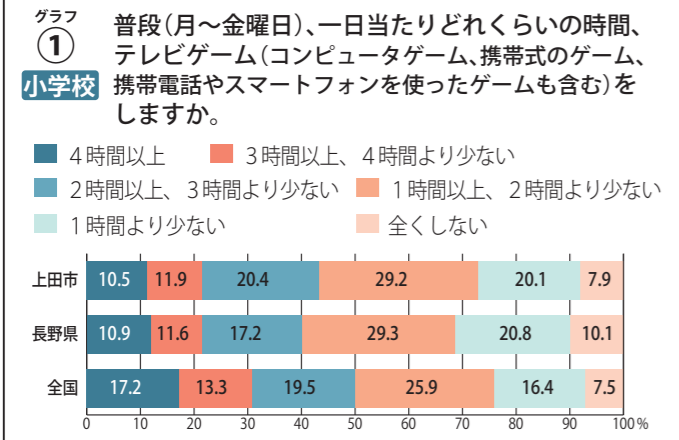
② 生活習慣や学習習慣に関する調査

小学6年生・中学3年生 共通

テレビゲームの使用時間の適性を目指して

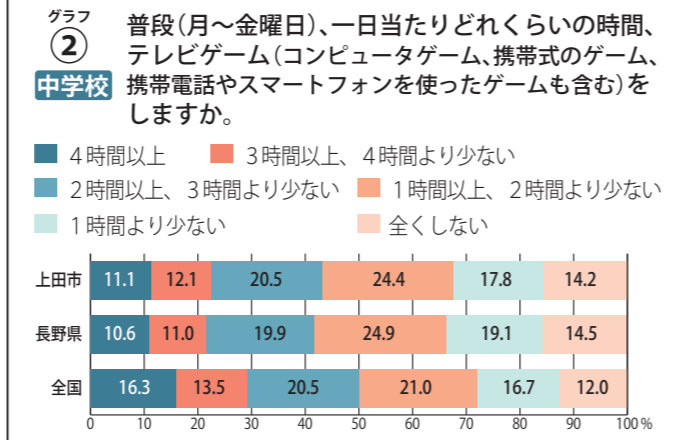
現状と課題

「一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」について、小学校、中学校ともに全国値に比べ「3時間以上」の割合が少ないものの、「2時間以上」が40%を超える結果となっています(グラフ①、②)。



今後に向けて

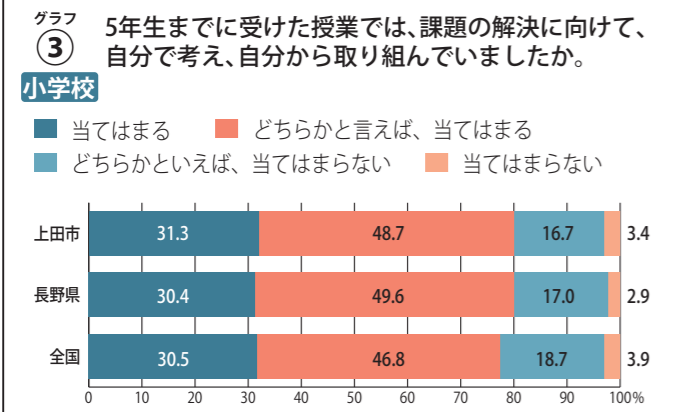
テレビゲームを3時間以上行う児童・生徒の割合が全国値に比べて低いことは良い傾向ですが、4時間以上の割合が、それぞれ10.5%、11.1%あることは課題と言えます。今後もメディアコントロールデーを設けるなど、家庭の協力を得ながら動画視聴の時間も含め、望ましいテレビゲームなどの使用について取り組んでいきたいと考えます。



自ら考え主体的に学ぶ子どもを目指して

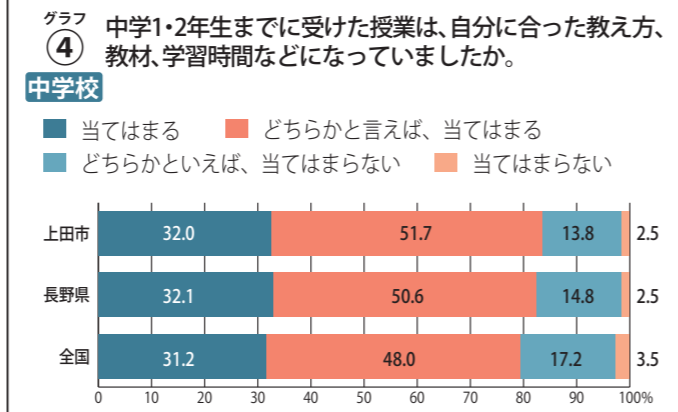
現状と課題

「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合の合計は、小学生が80.0%、中学生が83.7%でともに全国値を上回っています(グラフ③、④)。多くの教室で、子どもたちが課題解決に向け、主体的に取り組もうとしていることが伺えます。



今後に向けて

学校では、課題解決に向けて、子どもたちが意欲を持って主体的に取り組めるような授業展開を大切にしています。コロナ禍の限られた教育環境下であっても、子どもたちの願いや実態を大切にしながら、子どもの発想や取組を肯定的に捉え、課題解決学習がさらに展開できるよう取り組んでいきたいと考えます。



※グラフの合計値は100にならない場合があります。

③ 変化の大きな社会を生きる力を育むために

子どもたち一人ひとりが主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、これからも、学校では授業改善などに継続して努めてまいります。併せて、児童・生徒がよりよい生活習慣や学習習慣を身につけることができるよう、家庭・学校・地域の連携をさらに深めていく必要があります。上田市教育委員会では、これらの調査結果を有効に活用し、今後も児童・生徒の確かな学力の育成と将来の礎となる「生きる力」を育む施策を立案・実践してまいります。



全国学力・学習状況調査 市内の児童・生徒の調査結果を公表



全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して、指導方法の研修・改善や教育施策の改善・充実につなげることを目的としています。

今年4月に、市内の全小・中学校が参加した全国学力・学習状況調査の結果について、概要をお知らせします。

なお、この調査結果は、児童・生徒が身につける学力の一部であることをご承知ください。

○対象 小学6年生(25校)、中学3年生(11校)

☎ 学校教育課 ☎23-5101

○内容 教科に関する調査(小学生/国語・算数・理科、中学生/国語・数学・理科)
生活習慣や学習習慣に関する調査

① 教科に関する調査

小学6年生

教科	現状と課題	今後に向けて
国語	○平均正答率65.2%(全国値との比較 -0.4ポイント) ○昨年度課題であった「漢字を文の中で正しく書く」問題の正答率は、全国値を上回りましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国値に比べて低く、課題が見られました。	○話し言葉と書き言葉の違いを正しく理解することや、読み手を意識しながら、作文や手紙を書く活動を授業の中に位置づけ、場や状況に応じて文章を書いたり読んだりする経験を積ませたいと考えます。
算数	○平均正答率61.8%(全国値との比較 -1.4ポイント) ○「データの活用能力」に関する問題の正答率は全国値を上回りましたが、「数と計算」や「変化と関係」に関する内容の問題などに課題が見られました。	○基本的な四則計算や、公式を使って問題を解く学習を大切に扱いながら、生活場面を題材にして、必要な情報を見いだす問題を解く経験を積ませたいと考えます。
理科	○平均正答率62.8%(全国値との比較 -0.5ポイント) ○「エネルギー」に関する問題の正答率は全国値を上回りましたが、「粒子」に関する問題の正答率が全国値に比べて低く、課題が見られました。	○実験器具の名称や正しい使用方法について、実験を通して理解を深めることや、実験や観察結果を分析し、考察する場面を大切に扱っていききたいと考えます。

中学3年生

教科	現状と課題	今後に向けて
国語	○平均正答率67.3%(全国値との比較 -1.7ポイント) ○「行為や心情を表す言葉の理解」の問題の正答率は、全国値を上回りましたが、「話すこと・聞くこと」が全国値に比べて低く、課題が見られました。	○聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫したり、論理の展開に注意して聞いたりする学習を、授業において多く経験させたいと考えます。
数学	○平均正答率49.9%(全国値との比較 -1.5ポイント) ○「データの活用能力」の問題は比較的得意とする一方、「関数」に関する問題の正答率が全国値に比べて低く、課題が見られました。	○「変化と対応の関係」に着目させて問題に取り組ませたり、単に答えを出すだけでなく、どのようにして答えを導き出したかの話し合いを大切にしたいと考えます。
理科	○平均正答率49.6%(全国値との比較 +0.3ポイント) ○「知識・技能」を問う問題の多くは全国値を上回りましたが、「思考・表現・判断」を問う活用問題については、全国値を下回る問題が多く、課題が見られました。	○実験や観察結果を振り返り、整理する中で、実験の条件を変えるとどうなるかを考えたり、新たな疑問につなげたりすることで、さらに科学的思考を深めていきたいと考えます。